

米国第一 摩擦生む

ロシア疑惑でフリン大統領補佐官も辞任した。あらゆることが彼の言いなりで進んでいるわけではない。

悪いニュースは、トランプ氏がトランプ氏のままでいることだ。昨年大統領選の本選中は、当選すれば「常識人」になり、大統領らしく振る舞うだろうと思っ人も多かった。だが実際に

対北朝鮮 ちぐはぐ

第二次大戦後の米国の歴代政権は国際秩序をつくり上げ、維持する責任を引き受けてきたからこそ、他の国も協力してきた。

だが、トランプ氏はそのような努力を不必要な犠牲と考え、正反対なことをやろうとしている。当然ながら、国際社会はおもちゃ箱をひっくり返したような状態になり、今の国際秩序に満足しないロシアや中国にとって有利な環境が生まれている。

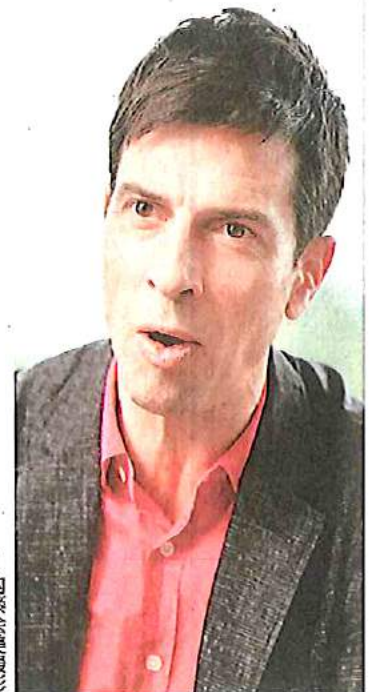
トランプ氏の子供じみたツイートや行動も波紋を広げている。5月の北大西洋条約機構(NATO)首脳会議で記念撮影の際、自分が前に出るために加齢したばかりのモンテネグロの首相を押しつけた。このような振る舞いが、同盟国の一般市民レベルで米国に対する信頼を損ね

ている状況は深刻だ。

米国では就任したばかりの大統領が高官を指名し、議会が承認するまで半年ぐらいかかる。だから新しい戦略を構築するのにも一定の時間はかかる。だが今は国務省も国防総省も政策立

案者の指名さえ進んでおらず、副長官以下の人事はスカスカの状態だ。物事を詰める作業ができていない。同盟協力の側面からも極めて不安定な状況だ。

喫緊の朝鮮半島情勢を巡って、トランプ政権の対応はちぐ



内藤絵美撮影

Patrick Harlan 1970年生。ハーバード大(比較宗教学専攻)に在籍し、タレント「パックン」の活動。2012年、東京工業大の教授に就任。著作に「大統領の演説

外交 内政 経済
E E B

を変えてしまったことだ。彼はツイートする内容も朝と夜とで違っている。この先の大統領に對し、米国民が「うそをついてはいけない」と求めるのが難しくなってしまう。米国建国から240年をかけて築き上げられてきた大統領像を、彼一代で汚している。歴史に悪名を残すのではないだろうか。

元副防衛相

長島昭久氏



大前撮影

ながしま・あきひさ 1962年生まれ。米ジョンズ・ホプキンス大高等国際問題研究大学院で修士号。2003年の衆院選で初当選、12年に副防衛相。今年4月に民進党を離党し、現在は無所属の衆院議員。

外交 内政 経済 指導力
C D B D

な同盟国だけでなく、中国も戸惑い、互いに疑心暗鬼に陥っているのではないだろうか。日米の安全保障対話は評価のしようがない。本来なら朝鮮半島の有事に備え、現地の米国人や日本人を避難させるオペレーションを詰めなければいけないのに、米側の担当者がそろわないので日米韓の3カ国で実務的な話し合いができていない。米国は軍事的な行動を起こすかもしれないという圧力をかけているのだから、これでは無責任だ。今月中旬に予定されていた日米の外務・防衛担当閣僚による安全保障協議委員会(2プラス2)も、米側の日程上の理由で延期された。北朝鮮がミサイル開発を進め、現在の日米のミサイル防衛では歯が立たなくなっている。今後、どのようなシステムを開発し、日米それぞれ役割分担はどうすべきかを協議する重要な機会を逃すことになり、憂慮に堪えない。